



学校だより “行きたい学校・帰りたい家・住みたい町”

上小岩



令和6年 9月30日

NO.6

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司



「応援の力」そして「あの経験があったから…」

校長 宮本 知司

熱狂させたパリオリンピック。体操、レスリング、卓球、陸上…と連日の“チーム JAPAN”の妙技に日本中が沸き、大いに元気と勇気をいただきました。その一方で、残念ながら実力を出し切れずに肩を落とす選手の姿も報じられ、ここまでの努力の積み重ねとその胸中の思いに共感し、「これからも頑張れ！」とパリの空に向かってエールを送りました。きっと皆さんもそうであったことでしょう。

東京大会からの連覇を狙っていた柔道女子の阿部 詩選手の敗戦直後の姿は、多くの人々の心も揺さぶりました。フランスでは柔道の人気が高いこともあり、いい勝負にはたくさんの拍手や声援が送られていましたが、畳から下りても涙の止まらない阿部選手の姿に、会場内から「UTA！UTA～！」の合唱も起こりました。「応援の力って本当に有難いなあ」と、会場にいるかのように胸を熱くしました。

また、地元の西小岩小学校出身の池江 璃花子選手は、2大会ぶりの個人種目となる100Mバタフライの準決勝で敗れた後、涙ながらにインタビューに応じました。素直に悔しさを語った後で、「人って悔しさを経験しないと成長できないと思う」「この経験は一生のもの」と、しっかり前を向きました。

阿部選手や池江選手のように、多くの選手が苦しい練習を重ねてきた末の夢の大会。その敗戦も「あの経験があったから…」といつの日にか、それぞれの人生のプラスとなってほしいと願い、同時に私たちは『自分自身の生き方』とも重ねます。



本校であった事件の報道から、ようやく3か月がたちます。上の話とはまったくレベルが異なることですが、たくさんの方々からの応援の気持ちやお言葉によって、本校の子供たちも我々学校職員もが助けられ、支えていただくことができました。そして、この負の経験も「必ずプラスに転じていくぞ！」と思い続ける日々でした。先月はまだ、この学校だよりで語れるまでに状況も心も整理がつかずにいましたが、ようやく状況は落ち着き私自身も吹っ切ることができました。今回の件に際し、本校のもつ「地域力」そして「保護者力」には深く感謝いたしますとともに、校長として誇りに思います。そして改めて、「上小岩小学校は、一人一人の子供たちを大切にしている学校」であり続けること、それをここにお誓い申し上げます。

◀ 10月の全校道徳 ▶

『親切・思いやり』

身近にいる人に温かい心で
接し、進んで親切にする。

今月、6年生の子供たちと初秋の日光を訪れました。5年生時のウィンタースクールからまた大きくスケールアップした生活態度は、まさに中学校進学に向けた「力強い助走」のようにも感じました。自分で考え行動しながらも、常に友達のことも思いながら和気あいあいと過ごした3日間。残念ながら体調が整わずに参加できなかったり、途中で帰宅となってしまったりした子のことを自然と気にかける子も多く、今回の学年テーマ「協力」は、高いレベルで達成できたと実感する6年生の姿でした。



11月は新行事『かみっ子 芸術祭』が初めての実施となります。「子供たちの努力や成長の姿を多くの保護者・地域の方々にも感じ取っていただき、励ましてもらいたい」、そんな思いで丁寧に準備を進めています。体育館での音楽を主とした「舞台発表」の学年、プレイルーム他での図工などの「作品発表」の学年、どちらも見ごたえ聴きごたえ抜群の仕上がりとなっていくことでしょう。お子さんから見どころや頑張ってきたことなどを聞き取り、どうかワクワクとした気持ちをいっぱいにして会場においでください。まだ少し先のことですが、本校の子供たちの姿を通して芸術に浸っていただける晩秋の一日となりますようお願いしています。